

16. Sternocostoclavicular hyperostosis の骨シンチグラフィ

西岡 明人 吉田 祥二 山本 洋一
吉田 大輔 前田 知穂 (高知医大・放)
赤木 直樹 久保 嘉彦 (同・放部)

前胸部に疼痛を認め、骨シンチグラムで同部に異常集積のみられた、Sternocostoclavicular hyperostosis の症例を経験したので報告した。症例は 50 歳男性で、関節痛、発熱、膿疱を主訴に来院し、検査成績では、白血球増多、赤沈亢進、CRP 陽性、Al-p, γ -GTP および α_2 -グロブリンの上昇といった典型的異常を示していた。骨シンチグラムでも、両側胸鎖関節周辺に RI の異常集積が認められたが、合併症としてみられる spondylitis 等は臨床にみられず、骨シンチグラムでも仙腸関節、脊椎骨に異常はなかった。本症例は、掌蹠膿疱症を合併しており、ソノザキらの X 線所見による病期分類では stage 2 に相当するものと考えられた。

17. 悪性リンパ腫における骨シンチグラフィの臨床的検討

則安 俊昭 平木 祥夫 加地 充昌
白神 敏明 道家 哲也 神崎 典子
水田 昭文 柏谷 尚子 青野 要
(岡山大・放)
竹田 芳弘 (香川県立中央病院・放)

骨シンチグラフィを施行した悪性リンパ腫 60 症例について、年齢、性別、組織型、骨シンチ所見、病変の有無を検討し、さらに臨床病期を決定する際の骨シンチグラフィの役割について検討を行った。

骨シンチグラフィでの異常集積は 60 例中 25 例に認められたが明らかに悪性リンパ腫の骨病変と考えられるものは 3 例のみですべて Non-Hodgkin's lymphoma diffuse medium であった。また、これらはすべて骨髓浸潤が認められ病期決定における骨シンチグラフィの有用性は少ないが、骨病変の検索、経過観察には有用であると考えられた。

18. 播種性骨髄癌を呈した胃癌の骨シンチグラフィ

山家 仁 謝花 正信 勝部 吉雄
(鳥取大・放)

転移癌の一病型で特殊な増殖形式をとることが知られている播種性骨髄癌と思われる一例を経験し、骨シンチが病態把握に有用であったので報告する。33 歳男性、背部痛にて来院。異常所見としては、血尿と ALP の高値が認められた。胸 X, US, CT では特に異常が見られず、シンチにおいて全身の骨格系に高集積がみられ、absent kidney sign を呈した。生検、透視において未分化型胃癌と診断された。本症例は入院後 DIC, MHA を併発し、クモ膜下出血にて死亡した。本症例のように、肺・肝に転移巣がなく、骨 X 線においても特異的所見が得られない場合でも骨におけるびまん性の広がりを見るのにも骨シンチは有用であった。

19. 脾悪性リンパ腫のガリウムシンチグラフィ

寺島 正子 上池 修 吉田 祥二
山本 洋一 西岡 明人 前田 知穂
(高知医大・放)
赤木 直樹 久保 嘉彦 (同・放部)

悪性リンパ腫の診断に必要な Ga シンチグラフィが脾悪性リンパ腫においてどの程度、肉眼的所見に一致するか、症例を呈示し比較検討した。

症例 1 は Ga が脾にびまん性に集積し、肉眼的には粟粒状腫瘍を示した non Hodgkin であった。症例 2 は Ga が脾にびまん性集積を示し、肉眼的にもびまん性脾腫を示した non Hodgkin であった。症例 3 は Ga シンチで多発性腫瘍状集積を示し、他の画像診断で同様の所見を確認された、Hodgkin 病であった。

肉眼的所見を、①腫瘍のないびまん性脾腫、②粟粒状腫瘍、③多発性腫瘍、④単発性腫瘍に分類すると、①と②は Ga シンチ所見では鑑別はできないが、①、②と③は Ga シンチ所見で鑑別できると考えられた。